

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保		重点的方針	1-4 「このみやLife」の提案と発信	
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	住宅ストック管理流通活用事業(No.39)	
予算等事業名	住宅ストック管理流通活用事業				
目的	平成27年度に作成した空き家バンク制度の効果的な活用を行うため、検討委員会の設置と計画策定を行い、制度を利用した方に対して補助金を交付することにより良好な住宅ストックを流通させ、定住人口の増加を図る。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの運用 ・空き家等対策計画の策定 ・空き家等対策計画作成等検討委員会の開催(年4回) ・住宅ストック流通補助 				
根拠法令・条例等					
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	委員会の報償費や事業を促進するための補助金交付が主要予算となっているため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	現在は、今後の町として取り組む事業内容を検討・推進する段階のため、効率化を検討する段階でない。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 全国的な問題であり、町として積極的な取り組みを行っている。				

総合評価

実績	平成28年度に空き家等対策計画策定等検討委員会を立ち上げ、5件の空き家を登録。未転入のため、補助金の交付まで至らないものの、1件の成約に至った。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	総合戦略における重要業績評価指数				
中期(28年度)目標値	1件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	1件				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,088	33				
財源内訳	一般財源	2,088	33				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 全国的に空き家問題が深刻化するなか、適正管理の推進を図る。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 空き家の適正管理や流通促進を進めるため、各種団体等と協同して推進する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 平成28年度に空き家対策に関する検討委員会を立ち上げ、平成29年度から具体的な検討を行	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 現在、委員報酬のみのため、費用対効果としては問題がないが、空き家バンクの進展に伴い、登録の仕方や扱う物件等を改善できる可能性はある。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 空き家対策に関する計画を、平成30年度の策定に向けて、平成29年度に検討していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	引き続き、積極的に事業を展開していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	今後、増加すると想定する空き家等の対策について、空家の管理や流通の方向性を示すとともに、活用に向けた計画の策定を行っていく必要がある。		
今後の方向性	空き家バンクは、民間事業者とも連携を図りながら、効果的な制度の確立を目指す。住宅ストック流通補助金については、町の住宅施策を一体的に包括した制度の確立を検討していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	東大跡地・国立小児病院跡地の検討(No.42)				
予算等事業名	まちづくり総合調整事業(公共施設再配置・町有地有効利活用検討委員会)							
目的	平成26年度から暫定土地利用が始まっている東京大学二宮果樹園跡地及び国立小児病院跡地の利活用について、公共施設再配置・町有地有効利活用等検討委員会を設置し、町有地有効利活用計画を検討する。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設再配置・町有地有効利活用検討委員会の開催(年3回程度) 町有地有効利活用等計画策定 東大跡地暫定土地利用(貸し出し) 							
根拠法令・条例等	-							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		委員報酬と業務を効率的に推進するための委託料を予算措置しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		事業を効果的・効率的に実施するため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 全国的な問題であり、町として積極的な取組みを行っている。		

総合評価

実績	平成27年度に公共施設再配置・町有地有効利活用等検討委員会を立ち上げ、平成28年度に町有地有効利活用等計画策定方針を決定した。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	会議開催回数、計画策定		
中期(28年度)目標値	計画の策定方針の決定	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	策定方針の決定	実施計画の策定	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		20,054	17,977				
財源内訳	一般財源	1,500	1,215				
	国庫支出金	18,554	16,762				
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 町の今後を見据えた計画策定をする必要がある。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町の今後を見据えた計画策定をする必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 策定方針を踏まえ、平成29年度に具体的な実施計画を作成する。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 地方創生推進交付金を活用し、戦略的に町の計画作成を進められている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 具体的な推進をするため、引き続き事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成29年度には町有地有効利活用等の計画を策定する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	平成28年度に策定した実施計画策定方針に基づき、平成29年度には今後、10年間の実施計画を策定する。
今後の方向性	平成29年度には実施計画を策定していくが、庁舎は平成29年度中に、また、小中学校は平成31年度までに方向性を示すこととなっていることから、その結果を受けて、実施計画の見直しを行っていく。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	地域公共交通計画推進事業(No.44)				
予算等事業名	交通計画推進事業							
目的	路線バス・コミュニティバス・デマンドタクシーの再編・見直しや新たな交通の導入可能性を検討し、日常生活の移動手段が確保されている環境づくりを進める。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通推進協議会の運営 ・地域公共交通の運行(見直し、再編、実証運行) ・デマンドタクシーの運行 							
根拠法令・条例等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 ・道路運送法 							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	29年度に予定している地域公共交通の見直しにより、経費の削減が可能となるため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	29年度に予定している地域公共交通の見直しにより、デマンドタクシーを休止し、効率的なコミュニティバスの運行が可能となるため。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		B
	【説明】 平成29年度に地域公共交通の見直しとして、デマンドタクシーを休止し、コミュニティバスの再編を実施する。		

総合評価

実績	地域公共交通推進協議会や地域説明会を経て、29年度からの運行の再編を行う。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	コミュニティバスの乗車人員・デマンドタクシーの乗車人員の動向		
中期(28年度)目標値	100人/日	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	41人/日		

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,357	1,201				
財源内訳	一般財源	1,357	1,201				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 人口減少等により、いわゆる交通弱者が発生しているため、町が実施することは妥当。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 地域等が必要性を感じ、独自に交通対策を実施することが最良と思われるが、意識醸成を図るためにも、今は町が行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 乗車人員は依然として低いが、公共交通の必要性についての意識が高まっている地区があり、一定の成果が出ている。平成29年度の再編で、より意識を高める仕組みを作り、展開していく。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 地域公共交通事業を維持するための費用がかかっている。今後、利用促進を図り、より効率的な事業展開を目指す。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 コミュニティバス等の利用は依然低迷しているが、地域の意識啓発は一部地域で進んでいる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成29年度にデマンドタクシーの休止とコミュニティバスの再編を行うとともに、利用促進と意識啓発の仕組みを盛り込んで展開していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	平成25年度より試行運行しているデマンドタクシー及びコミュニティバスについて、利用実績等を踏まえ、改善に向けた検討を行っている。
今後の方向性	平成29年9月末でデマンドタクシーを休止し、コミュニティバスの再編を行い、利便性を向上させ、利用者の増加を図る。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課		
基本構想	戦略的行政運営	重点的方針	4-2 戦略的な自治体運営及びスリムな財政運営の推進		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	総合計画推進事業(No.85)		
予算等事業名	総合計画策定事業(中期基本計画)				
目的	総合計画の効果的・効率的な推進を図るため、行政評価に基づく進行管理を実施する。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 行政評価による進行管理 中期基本計画の推進 				
根拠法令・条例等	-				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		※予算措置なし			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		PDCAマネジメントサイクルに基づく評価を行い、事業の見直しを行っているため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 行政評価の目的は、総合計画の進行管理だけではなく、時代の変化に合わせ、計画そのものをより良い方向へ見直していくことにあるため、引き続き、推進する必要がある。				

総合評価

実績	平成27年度に中期基本計画を策定し、平成28年度からその計画に基づいて事業を展開した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	総合計画の進捗率				
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	各施策の目標値等はあるものの、全体としての目標値は設定できない。	

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	—
	【説明】	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】	PDCAサイクルにより、内部から事業の検討をする必要がある。
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】	毎年事業の見直し、検討を実施して、進捗状況を確認するとともに、効率的な運営を目指している
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	進捗状況の確認と、要検討・不要事業の洗い出しで効率的な行政運営を図っている。
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成29年度から後期基本計画の策定に向けた検討を始める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	行政評価の目的は、総合計画の進行管理だけではなく、変化する時代に合わせ、計画そのものをより良い方向へ見直ししていくことにあるため、引き続き推進する必要がある。
今後の方向性	評価結果を効率的・効果的に施策に反映するため、評価手法について検討する必要がある。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課					
基本構想	戦略的行政運営		重点的方針	4-2 戦略的な自治体運営及びスリムな財政運営の推進				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	総合戦略推進事業(No.86)				
予算等事業名	総合戦略推進事業							
目的	「まち・ひと・しごと創生法」(平成26年法律第136号)に基づき、国並びに県の総合戦略を勘案して「二宮町人口ビジョン」並びに「二宮町総合戦略」を策定し、効率的・効果的な行政運営を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略の推進 ・外部有識者等による評価委員会等の開催 							
根拠法令・条例等	・まち・ひと・しごと創生法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		外部有識者等による評価委員会の報償費のみのため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		PDCAマネジメントサイクルに基づく評価を行い、事業の見直しを行っているため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 総合戦略評価の目的は、総合戦略の進行管理だけではなく、時代の変化に合わせ、計画そのものをより良い方向へ見直していくことにあるため、引き続き、推進する必要がある。							

総合評価

実績	平成27年度に二宮町総合戦略を策定し、平成28年度は27年度事業について外部有識者等による評価を行った。					
中間評価との相違点						
事業指標(数値指標)	総合戦略における重要業績評価指数					
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】					
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	各基本目標および施策に対する目標は設定できるものの、全体の目標値は設定できない。		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		66	60				
財源内訳	一般財源	66	60				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町施策・事業の効率的・効果的な運営のため、必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町施策・事業の効率的・効果的な運営のため、必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 具体的な目標値の設定などで、より積極的な事業展開が見込まれる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 地方創生加速化、推進交付金等を活用し、効率的な事業運営ができています。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 総合戦略に掲げる目標を達成するため、各施策・プロジェクトを効果的・効率的に推進している。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も各プロジェクトの具体的な目標値の達成に向け、積極的に推進していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	基本目標の達成に向け、施策に対して重要業績評価指標を設定し、各プロジェクトを推進しており、それに対し、内部評価と外部委員会からの意見を踏まえ、必要に応じて施策やプロジェクト、重要業績評価指標との見直しを行っている。		
今後の方向性	全庁的な取り組みを推進し、外部評価委員会の意見も踏まえながら、基本目標の達成に向けて推進していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課					
基本構想	戦略的行政運営		重点的方針	4-2 戦略的な自治体運営及びスリムな財政運営の推進				
分野別方針	自治体経営		実施計画事業	行政改革推進事業(No.87)				
予算等事業名	行政改革推進事業							
目的	行政改革を進めるとともに、民の力を活用した行政施策の推進、経営感覚豊かな行政運営の推進により、効率的で質の高い行財政運営を行う。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 第4次二宮町行政改革大綱・推進計画の推進 第4次二宮町行政改革推進計画進捗管理 							
根拠法令・条例等	—							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		※予算措置なし							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		行政改革推進本部及び幹事会(ワーキンググループ)は職員で構成されており、効率的に実施されているため。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)								A
	【説明】		第4次二宮町行政改革大綱の初年度として、進捗状況を踏まえながら必要な修正を加え、着実に推進する必要がある。						

総合評価

実績	平成27年度の事業実績を見直し、より効果的、効率的な事業展開を推進する。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)	行政改革推進計画進捗率の向上							
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】							
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	各事業ごとの目標設定はしているものの、計画全体の目標設定はできない。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源	0	0				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町施策・事業の効率的・効果的な運営のため、必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町施策・事業の効率的・効果的な運営のため、必要である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 具体的な目標値の設定などで、より積極的な事業展開が見込まれる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 民の力を活用するなど、より効率的で効果的な事業展開を図るため、行政改革を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	一部事業で未実施の項目があるため、各事業の課題を整理しつつ、計画の推進を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	進捗状況を踏まえながら、計画の推進を図るとともに、未実施の項目について、課題を整理し、計画を進める。		
今後の方向性	現在の行政改革の内容を検証し、次期行政改革大綱の策定に向けた準備を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課				
基本構想	戦略的行政運営	重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	安心して住み続けられる地域再生事業 (No.9)				
予算等事業名	安心して住み続けられる地域再生事業(公共施設再配置)						
目的	町有地の利活用や公共施設の適正な配置及び維持管理について、検討委員会において検討する。また、地域課題を解決するため、地域住民を中心とした協議会を設立し、地域づくりとコミュニティ活動を支援する。						
内容	<ul style="list-style-type: none"> 再配置基本計画策定 実施計画策定 						
根拠法令・条例等							
体制	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		委員報酬と業務を効率的に推進するための委託料を予算措置しているため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		事業を効果的・効率的に実施するため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 全国的な問題であり、町として積極的な取り組みを行っている。				

総合評価

実績	平成27年度に公共施設再配置・町有地有効利活用等検討委員会を立ち上げ、平成28年度に町有地有効利活用等計画策定方針を決定した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	経費の減少				
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度の計画策定をするため、現段階で「経費の減少」を指標にした目標設定ができない	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		20,054	17,977				
財源内訳	一般財源	1,500	1,215				
	国庫支出金	18,554	16,762				
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町の今後を見据えた計画策定をする必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町の今後を見据えた計画策定をする必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 策定方針を踏まえ、平成29年度に具体的な実施計画を作成する。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 地方創生推進交付金を活用し、戦略的に町の計画作成を進められている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 具体的な推進をするため、引き続き事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	平成29年度には町有地有効活用等の計画を策定する。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	公共施設再配置・町有地有効活用について、実施計画策定方針を策定したことにより、中長期的な方針と今後10年間の実施計画の方向性を示すことができた。		
今後の方向性	平成29年度には町民意見を聞きながら、今後、10年間に実施していく具体的な内容を実施計画として策定していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	政策総務部 企画政策課		
基本構想	戦略的行政運営	重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	広域行政推進事業(No.93)		
予算等事業名	広域行政推進事業				
目的	広域的な行政施策や取組みを必要とする行政課題等の情報交換及び連絡調整を図り、広域行政を推進する。				
内容	・広域行政の推進				
根拠法令・条例等	—				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		各協議会の負担金が発生するため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		広域での取組み内容を見直し、的を絞ることにより、効率化を図ることができる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 種々の行政課題に対し、解決に向けた意見交換等の取組みが広域的に連携して行われており、今後も継続する必要がある。				

総合評価

実績	消防の広域化、子育て施策の広域化など、事業の効率化、有効化が促進された。また、県への要望活動なども継続して実施している。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	広域協議会の設置数				
中期(28年度)目標値	10			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	9				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		58	58				
財源内訳	一般財源	58	58				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 広域連携を図るための各種協議会の負担金は必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 行政課題の解決に向けた協議会であるため、町が行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 広域連携により自治体間の交流だけでなく、事業分野の協力・連携が図れている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 事業等の開催には県振興協会助成金等活用し、効率的に運用している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 行政課題の解決、事業の効率化など、効果は大きく、今後も広域化による可能性が大きい ため、 継続して連携していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	葛川サミットと秦野市・中井町・二宮町・大磯町行政推進協議会は構成団体が重複しているため、検討が必要。 小田原市との連携は、今後も強化していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	広域での行政課題を解決するために今後も連携が必要になるが、葛川サミットと秦野市・中井町・二宮町・大磯町行政推進協議会は構成団体が重複しているため検討が必要。
今後の方向性	葛川サミットは、独自の政策課題に特化して解決を目指す組織とするのか、秦野市・中井町・二宮町・大磯町行政推進協議会と一体化して広域連携を進めるのかを検討する。